

「はじめに」

このたび手術治療を受けるにあたり、手術の前にどのような検査や処置があるのか、どのような内容の手術を受けるのか、手術に伴って起きる可能性があるできごと（合併症）はどのようなものが、術後の回復はどのような経過をたどるのか、術後の入院期間はどの位なのかなど、いろいろ疑問なことがあると思います。ここでは、あなた様が受ける手術に関して一般的な説明を致します。個々の患者さんについては、内科的な病気をもっているか、以前に手術を受けたことがあるか、肥満があるかなどの条件によって私たちが行わなければならないことや術後の経過が変わる可能性があります。個々の患者さんについて特に説明を要することはあらためて詳しく説明いたします。

「子宮鏡手術について」

子宮鏡は子宮頸部から細いカメラを挿入し、子宮内腔を観察する機器です。機器には電気メスの装置がついており、実際に子宮内腔を見ながら病変部分を削ることにより、ポリープ、筋腫を摘出します。また、内腔に癒着がある場合にはメスで癒着部分を剥がします。子宮内腔の視野を見やすくするために、還流液を流しながら手術を行います。開腹術に比べて術後の回復も早く数日間で退院となります。欠点は子宮穿孔、出血などで緊急な対応が必要になった場合には開腹手術に変更することがあることです。また、子宮筋腫の場合、大きさ、できている位置によってはすべて取りきれない場合があります。その場合には、手術は終了し、日を改めて再度行うか、もしくは開腹手術を行うかを決めます。術後の癒着を防止するために、子宮内にリングなどの器具を一月ほど挿入することがあります。

手術の合併症には術中術後出血・血腫の形成、子宮内感染や骨盤腹膜炎などの感染症、子宮の穿孔と穿孔による他臓器（腸管、尿管、膀胱等）の損傷、下肢深部静脈血栓症、肺塞栓症、術後の癒着などがあります。還流液の過剰な使用による腹水の貯留、水中毒などです。

合併症に対する説明

- (1) 出血について：出血により身体の血液が大量に失われると、心臓から送り出される血液や血管の中を流れる血液が不足して循環不全となり、全身に酸素が運べなくなり致命的な状態となります。そのような状態にならないように細心の注意を払って手術を行います。
- (2) 感染症について：術中、術後に抗菌剤の投与を行い、感染を予防するように努めます。感染がつくと熱が出て、腹痛が起ります。稀ですが、お腹の中に膿みがたまったりすることがあります。必要があれば再手術の必要があります。感染症が起ってしまった場合には入院期間が延びることがあります。
- (3) 子宮穿孔：子宮筋層の薄くなっているところなどをメスで削った場合に、時に穿孔を起こすことがあります。傷が小さい場合には入院安静ですみますが、傷が大きい場合には開腹して修復する必要があります。
- (4) 子宮穿孔による他臓器の損傷について：子宮の周囲には腸管、膀胱、尿管等があります。子宮穿孔の際に周辺臓器が損傷することがあります。その際には開腹の上、外科的な処置が必要となります。

- (5) 下肢深部静脈血栓症、肺塞栓症について：下肢深部静脈血栓塞栓症（以下、血塞栓症と略します。）は手術で長時間同じ姿勢をとった際に足の静脈の血流が悪くなり、静脈の中で血液が固まってしまう状態です。従来は白人女性に多く日本人女性には少ないとされ、あまり重視されてきませんでした。ところが、近年日本人女性においても決して稀な疾患ではないことが認識され、更に、エコノミークラス症候群として血栓塞栓症（肺塞栓症）が注目されたことにより、その重要性が認識されるようになりました。術後の血栓塞栓症の発生頻度は全婦人科手術の10.8%で、その内、肺塞栓症に至る頻度は0.08%、良性疾患では全国で0.03%の頻度で発生しております。肺塞栓症が起ると致命的になります。静脈血栓症予防のガイドラインに則り、脱水の予防、ストッキング、間欠的空気圧迫法などにより予防を行います。患者様には早期歩行を励行して頂きます。
- (6) 術後の癒着について
手術後に組織の修復過程において子宮の内腔が癒着することがあります。予防のためにリングなどを子宮内に約1ヶ月間装着します。
- (7) 還流液による腹水の貯留、水中毒について
子宮の内腔を観察するために還流液を流す必要があります。還流液は通常は子宮から膈の方に排出されますが、一部は卵管を通過して腹腔内に漏れます。手術が長時間に及んだ場合などで、多量に腹腔内に溜まると水中毒をおこすことがあります。使った還流液の量に注意しながら手術を進めていきます。もし、多量に腹腔内に漏れるようでしたら手術を終了することがあります。

「手術後は」

術後3-4日で退院になりますが、これは患者様の術後経過により判断されます。退院後に腹痛、発熱がみられた場合は、翌日外来を受診して下さい。緊急な場合には、夜間であれば「アルテミス ウイメンズ ホスピタル」、日中では「ウイメンズ・クリニック大泉学園」にご連絡ください。術後の入浴・性交は、退院後外来で許可されるまで控えてください。術後の方針については患者様によってそれぞれとなりますので、医師より説明を聞いて下さい。

連絡先

ウイメンズ・クリニック大泉学園

TEL : 03-5935-1010

アルテミス ウイメンズ ホスピタル

TEL : 042-472-6111